

1 学習課題を見いだすための手立て

自分の学習課題を見付けるための教師の支援、指導の工夫

○「できる」を積み重ねる単元の導入の工夫 ○児童が常に自己の学習課題をもてるようにする工夫
「前転」を中心とした、それに関わる動き(ゆりかご等)をスモールステップでできるかどうか試すことで、児童に「できる」を積み重ねさせた。また、児童が試行錯誤できるような時間をとり、自由に工夫して取り組めるようにすることで児童が学習課題を見いだせるようにした。

2 粘り強く解決できるようにするための手立て

主体的に運動に取り組むための学習過程の工夫

○学習カードや資料の工夫
「できた」が増えていくことが視覚的に分かり、次に解決すべき課題も分かる学習カードや、自己の課題に合った練習の場が見つかる学習資料など、児童が効果的に活用することのできるカードや資料を提示することで、単元を通して粘り強く取り組むことができるようにした。

できた。
他の方法でもやってみよう。



スモールステップの設定

「できる」を積み重ねる単元の導入の工夫

単元の導入で、「前転」やそれにつながる動きである「ゆりかご」について、着地の動作や人数に関する課題をクリアすることで、スモールステップで「できた」を実感させた。「2人で手をつないで前転する」「全員で手をつないで前転する」などの課題について、児童が試行錯誤できる時間をとり、工夫して取り組めるようにした。

学習過程の工夫

児童が常に自己の学習課題をもてるようにする工夫

教師からの課題を与え、解決方法を予想してから試す「ミッションタイム」活動を通して、児童の「もっとレベルの高い動きや技に挑戦してみたい。」などといった新たな学習課題を引き出した。

あのミッション
やってみたい。



学習資料や環境の工夫

学習カードや資料の工夫

技のポイントや自己の学習課題に合った練習の場が確認できる「指南書」を作成した。「指南書」は、技の行い方、技のポイント、練習方法・場で構成されている。また、児童の習得している技能によって学習カードを選択できるようにした。技の習得までのスモールステップやビューティフル・チャレンジ等の視点をもつことができるようになっている。

どうしたらうまく
できるかな。



◎成果と△課題

◎運動が嫌いだったり、技能が低かったりする児童でも取り組む意欲をもたせることができた。
△次時へのつながりや、技能を高めるといった視点に関しては、児童にゴールイメージをもたせること(動画視聴等)や、教師の声掛け・発問を工夫することが重要であった。